

9

総武線・東西線（津田沼→都心）

商学部 4 年

秋元 啓介

1. はじめに

千葉県の一大都市である津田沼や船橋には JR 総武線が走っており、これに乗ることで都心へ行くことができる。しかし、高度成長期に旧国鉄の総武線は急激な通勤客の増加によってひっ迫状態になった。そこで建設されたのが、旧営団、現在は東京メトロが運行する地下鉄東西線である。東西線そのものは西船橋駅から都心を経由して中野までを結ぶ路線だが、総武線のバイパスとしての役割を果たすため、平日の朝夕は西船橋から総武線に直通運転を行い、途中船橋を通過して津田沼まで運行される。

そこでここでは、津田沼から都心への通勤路線という点での JR 総武線と東京メトロ東西線との比較を、アクセス可能な駅、乗り換え可能路線、本数、所要時間、運賃の 4 点から行う。

2. アクセス可能な駅

ここでは総武線と東西線で乗り換えなしでアクセス可能な都心 3 区（中央区・千代田区・港区）の駅を示した。総武線は中央線各駅停車ならびに横須賀線と直通運転を行っているため、アクセス可能な範囲が広い。特に港区方面の新橋・品川にアクセスできるのは東西線にはない強みである。一方の東西線は茅場町・日本橋・大手町といったビジネス街を押さえており、譲らない。この点ではどちらの路線のほうが優れているというよりは、人によって使い分けるといふ形になるだろう。



総武線でアクセス可能な駅



東西線でアクセス可能な駅

3. 乗り換え可能路線

次に東京メトロと都営の地下鉄各線への乗り換え可否を示した。総武線は直通する中央線各駅停車や横須賀線と乗り換えられる路線は○とした。この点では両線とも副都心線以外のすべての地下鉄と乗り換え可能であり、互角であった。

	総武線	東西線
銀座線	○	○
丸の内線	○	○
日比谷線	○	○
千代田線	○	○
有楽町線	○	○
半蔵門線	○	○
南北線	○	○
副都心線	×	×
浅草線	○	○
三田線	○	○
新宿線	○	○
大江戸線	○	○

乗り換え可否

4. 本数

2021年3月のダイヤ改正現在、東西線は平日朝、津田沼駅 7:37 発から 8:51 発までの間で直通運転を行っている。そこで、この時間帯に津田沼駅を出発する、総武線と東西線の本数比較を行う。

津田沼駅はあくまで総武線の駅であるため、本数はどうしても総武線のほうが多くなってしまいます。ただ、東西線も10分に1本以上の頻度で走っており、利便性が悪いとは言えない。西船橋で乗り換えれば、本数は格段に多くなる。

総武線 (各駅停車)	総武線 (快速)	東西線
14	18	9

本数比較

5. 所要時間

津田沼駅から総武線と東西線の両方で行くことのできる東京駅（大手町駅）と飯田橋駅への所要時間の比較を行う。東西線は 7:37 発の通勤快速、総武線快速は 7:37 発、総武線各駅停車は 7:35 発で比較を行った。総武線での飯田橋へのアクセスは、各駅停車のみを使用した時間を採用した。

東京や飯田橋が目的地であれば、所要時間は総武線のほうが圧倒的に短いという結果になった。東西線は日中や夕方は停車駅の少ない快速という種別が走っているのだが、朝の通勤時間帯は停車駅の多い通勤快速という種別しか存在せず、所要時間が長いのがネックとなってしまう。

	東京 (大手町)	飯田橋
総武線	31	47
東西線	48	55

所要時間比較

6. 運賃

津田沼駅から東京駅（大手町駅）と飯田橋駅への運賃の比較を行う。

こちらでは東西線のほうがやや優位という結果になった。東西線利用だと、西船橋までは JR でその先は東京メ

トロと、初乗り運賃を二重に払うことになる。しかし、東京メトロの短距離だと高いが、長距離になっても運賃の伸びが少ないという運賃体系を採用しているため、東西線利用のほうが安くなるのである。

	東京（大手町）	飯田橋
総武線	473	473
東西線	451	451

運賃比較（ICカード利用時）

7.まとめ

運賃を除けば、行き先が総武線 1 本で行ける駅ならば、総武線を利用したほうが利便性は高い。しかし、茅場町、日本橋、九段下といった場所へのアクセスは JR では利便性が低いため、東西線を利用するということになるだろう。